

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
サービス種類	認知症高齢者グループホーム		
所在地	大阪府柏原市太平寺1-4-30		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れて、個人個人のご希望を聞き答えるよう職員一段となって対応できるようにしております。また、理念に掲げているように「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」を大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域に貢献する社会福祉法人が、地域密着型高齢者施設のひとつとして運営しているグループホームです。ホームは特養・ショートステイと併設で、3階建ての1階にあります。ホーム内は、季節感あふれる装飾や利用者の笑顔の写真等が飾られ、オープンキッチンで職員と利用者が食事の準備をする光景は日常的で、ご飯の炊ける匂いや聞こえてくる包丁の音が家庭的な雰囲気を高めます。屋上庭園からは、利用者の住み慣れた街並みや生駒山系の四季折々の景色を見ることができます。「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の法人理念のもと、「家庭的な雰囲気の中で、優しさと思いやりの心で支援します」をホームの理念として掲げ、利用者の豊かな暮らしの実現のために取り組んでいます。今年度から「希望を叶える取り組み」を実施し、個別ケアの充実にかけています。旬の食材をふんだんに使い、彩り豊かに盛り付けられた食事の美味しさもホームの大きな自慢のひとつです。職員は利用者の笑顔のため施設全体で様々な取り組みに工夫を凝らし、リビングから聞こえてくる会話や笑い声はいつも利用者中心の、明るくほのぼのとした雰囲気溢れるグループホームです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&lievosvoCd=2794600045-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和5年11月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パソコン横に壁に経理想念とケア目標、グループホームの理念を貼付しており、誰でも見れるようにしている。毎朝申し送り、朝礼の後でその日の出勤者全員で、理念、ケア目標、グループホームのケア目標を声に出して唱和しています。	「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の法人経営理念の下、「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念として掲げています。理念は、毎朝の申し送り時に職員で唱和しています。また、理念に基づき毎月の目標を決めて実践しています。法人理念の浸透による確かな実践が施設全体の温かい雰囲気を作っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年まではコロナ禍でしたので、リモートで、地域ボランティアの協力のもとに歌や手品、クイズなど参加。コロナ5類に移行してからは、近所のスーパーへ職員と買い物をしたり、地域のお祭り(太鼓祭り)の休憩所に活用しているので触れ合う様にしています。	地域との関係づくりには、積極的に取り組み、多くの地域ボランティアの協力も受けてきました。今はコロナの影響で地域との交流は以前のようにできていない状況ですが、10月に地区の御祭禮のふとん太鼓はホームの敷地内まで練り入り、利用者は昔と変わらない祭りの風景を喜びました。管理者は、コロナが落ちついたら「地域の方たちが入りやすい、垣根のないホームにしたい」と考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でしたので外出出来る事が少なく、5類に移行してから、買い物や外出へ月に1回お出かけしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でしたので2か月に1回家族様、地域住民、社協、市職員、地域包括支援センターへ提出して回答していましたが、コロナ5類へ移行してからは7月より2か月に一度、皆さんに集まって頂き開催出来るようになりました。	家族・地域代表・市職員・地域包括支援センター職員・社会福祉協議会職員等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。コロナの状況を見ながら書面での報告等行ってきましたが、現在は対面での会議を再開しています。9月の会議時に施設見学を行い、委員より屋上のさらなる有効活用についての助言をもらいました。	美味しい食事はホームの自慢のひとつです。運営推進会議の出席者の方々に、利用者と一緒に食事してもらおう試みも検討されたらいかがでしょうか。ホームへの理解の深まりが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方、包括の方も出席して頂いていますので、相談や、情報交換しています。事故報告も伝えております。	運営推進会議に市の担当者の参加があります。市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リーダー会議で定期的に身体拘束会議をしております。毎月ミーティングで入居者様のケア見直しや、法人での研修で身体拘束をテーマにして実施しております。	身体拘束廃止に向けた委員会や研修も実施しています。利用者に閉塞感を感じさせないように、職員と一緒に散歩や外出を日常的に行うことを意識しています。裏庭や屋上で新鮮な空気を楽しむ光景は日常的です。管理者は、職員のストレスにも配慮し、仕事とプライベートの切り替えができるように、勤務表作成時には休み希望数の制限をしないようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待(スピーチロック)にかんする研修をテーマにしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には成年後見人制度を利用されている方もおられます。連絡を取り合い、報告させていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には管理者と計画作成者で自宅に伺いご本人様と家族の方に分かるように説明して、不安や疑問には都度説明しております。入居後も疑問がある場合は、都度納得するまで話をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者様と家族様のコミュニケーションを大切にして、要望や、意見があれば、すぐに話し合いをしております。家族様がなかなか面会に来れない場合は、メール連絡をしたりやネットで動画を送らせていただいております。	家族の面会方法は感染症の動向をみて決められました。現在は、時間制限への理解と協力を得て居室で面会を実施しています。コロナ禍で自由に面会ができない家族の気持ちに応えるために、LINE(コミュニケーションアプリ)で写真や動画を送ったり、暮らしぶりがわかる写真を載せた新聞を送りました。また、タイムリーなインスタグラム(写真・動画投稿に特化したネットワーキングサービス)やブログの更新も家族に好評です。長いコロナ禍の中で「家族の大切さ」を学んだという管理者は、貴重な学びを日常の支援に活かしています。	玄関に大きな赤いポストがあり、「意見箱」として使っておられますが、意見は入らないのが現状です。今後、目的を拡げ、家族や職員が気軽に意見を入れられるよう「メッセージボックス」として活用されたいかががでしょうか。意見やお叱りだけでなく、「お褒めの言葉」も入れてもらったら、職員の士気もよりあがることでしょう。

己	自部外	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や業務中などで困ったことがあれば、その都度意見や提案を聞くようにしています。月に1回ミーティングをしており、意見や提案、業務見直し、ケアの見直しで意見や提案を解いています。何事も決定ではなく、「やってみよう」を大切にしています。	毎月のミーティングで意見を出し合っています。また、毎日の申し送り時も皆が意見を出し合っています。職員の意見は尊重され、チームワークのよい職場環境です。外国人スタッフも自分の国の料理を作ったりして利用者に喜ばれています。勤務希望をはじめ職員一人ひとりの事情への配慮は、職員の士気を高めています。管理者は、ベテラン職員の「自分ならグループホームでこう暮らしたい」という思いの中に、学ぶことがたくさんあると言います。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事姿を見て、片寄のない仕事内容にしております。苦手な仕事内容は、皆さんで助け合っています。やりたいことがあれば全面的に協力して、してみたい。したい。という声を大切にしたりやりがいや達成感を大事にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に法人内でオリエンテーションで研修しています。コロナ禍でしたので外部研修は行けていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型施設の会議に参加して情報交換している。法人内でスタッフと研修する機会を作っていたが、コロナ化で出来ていない。今は書面研修に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅に訪問して、本人や家族が不安や困っていることを聞き、不安がない状態で入所出来るように心がけしております。入所後は環境などに慣れるまでは、不安や要望がないか、訪ねながら安心できるようになるまで声をかけております。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは傾聴を心がけて、なんでも受けとめる姿勢を心がけています。不安や要望を聞き漏らさず、相談、連絡、報告を大事にしております。日々の様子も家族に電話報告して関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の実情や要望をもとに何が必要か施設として出来る限り対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する」「される」といった一方的な関係をせず、家庭の中で一緒に過ごし、一緒に取り組み、笑ったり、怒ったり、泣いたり、感動するなど同感出来る絆作りを、時間をかけて築いています。また、個々の個性を把握して、マンツーマンを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこれまでの生活を聴き、喜びも、苦しみも受け止め、本人様の生活を一緒に支援する事が大事です。こまめに、メールやインスタなどで日中の様子を伝え、あくまでも本人の支援ですので、本人が喜ぶ事を家族にも考えて頂き、一緒に出来る事を常に考えて、個々で対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に、これまで培ってきた人間関係や、馴染みの物や場所を聞き、入所しても断ち切らないように、お部屋に持ってきていただいたり、ドライブでその場所に散歩したり、病院なども継続して通院してもらい、電話で会話をしてもらおうなど悲しませないようにしています。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。自宅や地元付近へドライブをすることも多く、家に衣類を取りに行ったり、法事や墓参りにいく利用者もいます。また、屋上からは家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や、家並みなどを見ることができ、思い出したり語ったりすることからも馴染みの場所との関係が継続しています。食事の準備では、昔取った杵柄を發揮する利用者の生き生きとした表情を見ることが出来ます。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握して、ひとり一人が孤立しないように、職員がサポートしながら、レクや家事を利用者同士ですること、助け合い、達成感や満足感を得ること利用者同士で絆ができています。			
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などされたら、家族様と密に連絡を取り、本人の好み、習慣を伝え、これまでのケアの工夫の情報を伝えるようにしています。コロナ禍でしたので病院へ面会は出来ませんでしたので直接面会して励ますことは出来ませんでした。契約終了になりましても、連絡がありましたら相談に乗るようにしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の好みや意向を尊重するように心がけており、職員全員で情報共有している。言葉で表現できない場合は仕草などで確認し、本人様に一番良い方法を家族様と相談している。	今年度から「利用者の希望を叶える取り組み」を実施し、利用者一人ひとりの様々な希望も叶えることを大切に支援しています。回転ずし店で好きな寿司を食べたり、買い物に出かけ、好きな靴や花を買いました。携帯電話の機種変更やメガネの修理に行き、自分で選び自分でお金を払う「普通の暮らし」が実現できています。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で生活していた際に使用していた家具や愛着品、品物を持って来ていただくよう努めています。また、趣味にしていた物も持参していただき、継続して頂いています。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の希望を尊重して、要望を聞きながら居室で過ごしたい方、フロアで過ごしたい方、家事をしたい方、レクに参加したい方など自由参加しています。居室の場合は時々訪問させて頂いています。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングで個人のモニタリングをして意見や要望を職員から聞いてアイデアを出しあっています。家族様にも面会時や電話連絡時意見や要望を聞いて、介護計画を本人、家族様に説明して印鑑を頂いています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは6か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。計画作成担当者は「これからの老後、残された人生を楽しく過ごしてもらえるように」と心がけて計画作成にあたっています。丁寧に記入された支援記録は、利用者の暮らしぶりや表情が見える記録となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など感じたこと等を朝の申し送り等で連携しています。月一回ミーティングで個々の利用者の見直し時間問題点や情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題などあれば医療チームなどに相談して、家族様の面会時に最近の本人様の様子、問題点などを伝えて家族様とも相談し家族様の希望など聞かせてもらい支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に溶け込めるように近所のスーパーに買い物に行く企画を作ったり近所を散歩したりして楽しんでもらっている。また地域のだんじりの休憩場所に当施設を使ってもらい交流をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりかかりつけの病院に行かれています方は、入居後も家族様と相談し、かかりつけ病院に行かれる方は全面的に協力して家族が同行出来ない時は、職員が同行するようにしています。	協力の医療機関から週2回、内科医による訪問診療と、土日を除く平日に併設の特養から看護師が訪問し、24時間オンコール体制を整えています。歯科の訪問診療も可能です。利用者や家族はかかりつけ医を自由に決めことができ、訪問診療の内科医以外に入所前からのかかりつけ医を選ぶ利用者もあります。その場合の通院や他科受診の際は家族の同伴が原則ですが、無理な場合や緊急時は職員が付き添います。	

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調などに変化があれば、その都度看護師に報告・相談・家族にも連絡をしています。医療機関に受診が必要な場合は、家族と連携して受診しています。その際は記録に残すよう徹底しています。毎朝バイタル測定は記録に残しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時は急いで介護情報を病院へFAXで送るか提出しています。病院の相談員さんには連絡を取りあったり、家族と連絡を密に取り扱うようにしています。コロナ過でしたので面会は出来なく本人との面会は出来ませんでした。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明の時に説明して、契約時も説明するようにしています。看取りの事を説明して納得のうえ入所して頂いております。身体低下で重症化した利用者様には医師、看護師、家族と相談して方針を決めています。	経口摂取ができない、あるいは継続して医療行為が必要、等を基準として、重度化した際は、併設の特養をはじめ法人の別の特養や他の協力病院、介護保険施設等への転居や転院を紹介します。看取りは行っていません。重度化に係るホームの対応については重要事項説明書に明記し、入所時に重度化や終末期に向けた方針と併せて利用者・家族等に説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はしていませんが、救急連絡簿マニュアルは定位置に設置しております。夜間はオンコールで指示に従っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害、火災の避難訓練は年2回全利用者、全職員が参加して実施している。参加できなかった職員は企画書を確認している。コロナ以前は近所の方にも協力してもらっていた。	年2回、消防署の協力を得て火災と風水害の避難・救出訓練を実施しています。訓練では夜間の災害も想定し利用者も参加して行っています。また、災害訓練の具体的な計画を立てて事前に関係機関に通報すると共に、分かり易く職員に周知しています。備蓄については貯水庫があり、その他各種レトルト食品もストックしています。食品は賞味期限をチェックしています。	災害対策には地域連携が欠かせません。避難訓練の際、近隣住民に告知して参加を呼びかけていましたが、コロナ禍を経てストップしています。今一度、住民代表や行政も参加する運営推進会議で、防災を議題に話し合ってみてはいかがでしょうか。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れてくると同時に敬語が崩して話をする機会が多くなりますが人格を護る為にも苗字で呼ぶようにしています。また、羞恥心を大切にしており、訪問時は扉をノックしたり、本人に了解を得て訪室するよう努めています。	利用者の人格を尊重、羞恥心や誇りに配慮する対応や言葉遣については職員の入職時のオリエンテーションで接遇研修を行うほか、現場で不適切な対応や言葉遣いがあった場合は都度、管理者が注意しています。とくにトイレ誘導の際の声かけや、訪室する際の扉のノックなどには、とりわけ配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアを目指して取り組んでおり、本人の要望など聞いて出来る事を出来る範囲で支援しています。また、出来るのとしたいのは違うので必ず本人の意思を聞き自己決定して頂いています。決定出来ない方は家族に意見を聞き一番良い方法を考えるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個人の生活ペースに合わせながら、意思を尊重し希望に沿った支援を行っております。何事にも無理強いほしくない様強要しないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備は職員と服の準備をしたり、服を買う時は選んでもらうなどしています。毎朝整容などは職自身で出来ない人は職員と一緒にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じてもらおう旬の物を提供するよう心がけております。また、利用者のリクエストでメニュー作成しております。毎日、準備、調理、盛り付け、片付けまで利用者と一緒にしております。キッチンへ誰でも入れるようにしております。	3食とも献立、食材選び、買い物もホームで行い、調理専従者をメインにして職員が手作りしています。利用者の食べたいものを職員が聞き取り、管理者が献立を立てています。利用者も買い物や調理に参加しています。「料理が作れるから」と入所を決めた利用者がいます。旬の食材をふんだんに使い、彩り豊かに盛り付けられた食事は美味しいと好評です。この他、おやつレクリエーションをはじめ、外食や出前、屋上や裏庭での屋外昼食など食べる楽しみがいっぱいです。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41				○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の味を大事にしながら手作りを重視しております。摂取や体重は記録に残しており、血液検査結果などで異常があれば報告しています。食事で改善出来ることはするようにしています。水分量も記録しており、毎日どのくらい飲んでいるか、何を飲まれているか記録に残しております。			
42				○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯磨きや義歯洗浄、口腔スポンジ、うがい等個人にあったケアを実施しております。義歯を使用されている方は每晚ポリドントで洗浄しております。義歯や自歯の不具合や口腔内トラブル時は家族に相談して、歯科受診や往診に来てもらっています。			
43	(16)			○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必ず食前・食後に声を掛けさせてもらっています。その人のトイレ習慣を把握して対応しております。夜間も個々に合わせて誘導しております。また、羞恥心を大切にしており、大きな声で声かけしないように、職員間で徹底しております。	居室に温水洗浄便座(ウォシュレット)トイレがあり、利用者は全員が日中も夜間も居室で排泄しています。排泄チェック票はタブレット端末を利用して管理しています。現在、日中は一人を除いて布パンツを使用、見守りだけで自立に近い利用者も多く、声かけも必要ない人もあります。入居後にリハビリパンツから布パンツになった事例があります。		
44				○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄は個別に随時声かけしたり、誘導しております。各居室にトイレ設置していますので自身の居室でトイレ排泄されています。便秘予防に適度な運動もしており、体操も2回し散歩もしております。			
45	(17)			○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意思と要望を確認して入浴してもらっています。週2～3回バイタル測定し問題がないか確認のうえで施行。月に一回個人で入浴剤を選んでもらい湯船に入れてあります。曜日や時間は決めていません。入浴準備も職員とるようにしています。	夏場は2日に1回、その他の季節は週2～3回のペースで入浴しています。同性介助や毎日の入浴も可能です。機械浴を備えた個浴で、足の筋力が衰えた利用者も、またがずに浴槽に入れ、肩まで浸かれます。1対1介助で入浴中は職員と会話したり一緒に歌ったりして楽しんでいます。菖蒲や柚子を入れた季節風呂のほか、月に一度、利用者の好きな入浴剤を入れて楽しむ「温泉レクリエーション」があります。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46				○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人によって生活習慣や身体状況が違うので本人の意思を尊重したり、様子観察して、都度休息が必要でないか確認しながら声掛けしています。また、申し送りで夜間の様子を聞いて不眠でないか確認しながら日中の様子を確認しております。消灯も出来るだけ本人の意思を尊重しております。意思を言えない方は家族様の要望も取り入れております。			
47				○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成しており、効能と副反応が記載されています。職員が誰でも見れる場所にファイルは置いてあります。臨時で処方になった時はノートに記載しています。			
48				○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様に生活歴を聞いたうえで引き出したり、得意なことを勧め、得意なことが継続できるよう支援している。また新しい事にも挑戦してもらったり声掛けを大事にしております。			
49	(18)			○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過でしたのでなかなか出かけることが出来なかったのですが5類へ以降してから毎月希望、要望叶える日を個別対応でしております。	天気のいい日は毎日、朝食後にほぼ全員が、広い屋上庭園で散歩しています。大阪平野がパノラマのように広がる屋上は展望台のようです。また、「個別ケア」として月1回のペースで一人ひとりの希望を聞き取り、職員が付き添って買い物や外食に出かけています。コロナ禍で外出制限が続いていましたが、今年は全員で花見や奈良の馬見丘陵に繰り出しました。		
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口現金を預かり日用品、消耗品、嗜好品を購入したり、外出時スーパーで買い物する時に自身で選んでもらっている。本人や家族さんがお金を所持させてほしいとの依頼があれば可能。過去には財布に所持されていた方がいました。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの希望に沿って自宅に電話し、本人宛に来た手紙やはがきは手渡ししています。また、家族に電話連絡する際に、本人さんと会話をする機会も作った下ります。暑中見舞いなど、家族に手紙、ハガキを書いてもらい出すようにしています。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除や整理整頓を心がけております。また、季節感を出すため、共有スペースに季節に応じた空間作りをしています。入口の花瓶には季節の花を活けております。居室の温度調整は入居者様の声を大事にして設定しております。	玄関や廊下、リビングの随所に季節の生花や皆で作ったクラフトをあしらひ、四季を肌で感じる空間作りを行っています。壁には日常に撮った利用者の笑顔のスナップ写真を飾り、家族にも喜ばれています。 明るく広々とした居間兼食堂は隅々まできれいに掃除され、大小のテーブルや椅子を配置して利用者はそれぞれ居場所をみつめています。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアに、皆さんが集う、温かい雰囲気を作る事を心がけています。ソファや長椅子等テーブル席以外で設置しています。居室で過ごしたい方、フロアで過ごしたい方自由に行き来が出来るように心がけています。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して馴染みの物を持って来ていただいています。本人や家族と相談して家具や写真を飾ったり、手紙や工作を貼ったりしてその方が居心地の良いと思えるよう工夫しております。	居室は洗面台とトイレ、電動ベッド、エアコンを備え、掃き出し窓に内障子を備えた和風モダンな洋間です。利用者・家族はタンス、文机、テレビを持ち込み、写真や色紙を飾るなどして自分流に使っています。いつでもサッと出られるよう、外出用の上着や帽子をセットしてハンガーに掛けています。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない方には紙を貼ったり廊下には物を置かないように安全に配慮しております。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容